

山車台車や法被など整備

新町地区自治会がコミュニティ助成活用

新町地区自治会(加藤真四郎会長、239世帯)は、(財)自治総合センターの「宝くじの普及広報事業」コミュニティ助成事業を活用し、祭り用の山車台車と法被、集会用テントを購入しました。

同自治会は、7月28日に行われた千厩夏まつりのメインイベントともいえる「おどりと山車の競演会」に、地域住民総出で参加。新しい法被に身を包み、新装された山車を披露しました。これを機に、地域住民の親睦と融和がより一層図られ、地域コミュニティの醸成と住民意識の高揚に大きな効果が期待されています。



from
DAITO
大東

稲わらで作った古縄たわしで川底の石を磨き上げました

清流をみんなで守ろう

日大生らと石磨き大会

カジカの里の復活を願った石磨き大会は8月5日、内野地区で行われました。同大会は、下内野地区に流れる砂鉄川に生息するカジカが水質悪化により減少していることから、河川環境の保全と都市・農村間の交流を目的に、下内野自治会と日本大学生物資源科学部の交流事業として行われているもの。

同自治会をはじめ、日大生、大原地区の小学生ら約120人が参加。河野英一岡大教授から環境や生物についての説明を受けた後、参加者が素足で川に入り、川底の石を磨き上げました。水生生物調査やイワナのつかみ取りにも挑戦し、参加者たちは楽しみながら大自然を満喫しました。



from
SENMAYA
千厩

整備された山車(上)とテント・法被(左)

室根を満喫した夏休み

吉川市の小学生がホームステイ

本市の友好都市である埼玉県吉川市とのホームステイ交流事業「いなかっぺ大将in室根」は8月3日から6日まで、行われました。事業は今年で19回。吉川市から中学生1人と小学生4人が受け入れ家庭4世帯に分かれ、ホームステイを楽しみました。

初めて参加した子どもは緊張した様子でしたが、徐々に打ち解け、受け入れ家庭の子どもたちと一緒にひと夏の楽しい思い出をつくりました。中には二度、三度とホームステイに参加している子どももいて、再会を喜び和やかな雰囲気の中でさらなる友情をはぐくんでいました。



from
MURONE
室根

農家の人に教わりながらリンゴ園で摘果を体験



from
ICHINOSEKI
一関

液体窒素を使った実験で低温下の不思議を体験した児童たち

科学に親しむきっかけに

キッズサイエンス教室

キッズサイエンス教室は7月28日、一関高専で行われ、小学生15人が参加しました。「低温のふしぎ」をテーマに同校電気情報工学科の亀掛川尚子教授らの指導で実験などを行い、科学の面白さを体験しました。

児童はミシンのポビンに銅線を巻いた手作りコイルに、電池と豆電球をつないだ回路を手作り。ポビンを液体窒素で冷やすと、電気抵抗が弱くなって電球がより明るく輝き、「わあ〜」「すごい」と歓声が上がりました。舞川小2年の石川中和君は「びっくりしたけどおもしろかった」と満足そうでした。



from
KAWASAKI
川崎

「こうやって…」と本場中国の水ギョーザ作りに挑戦

ゆかりの地で賢治を体感

グスコブドリの大学校

グスコブドリの大学校「夏の学校」は7月28日から3日間、石と賢治のミュージアム「太陽と風の家」などを会場に行われ、全国の研究者やファン39人が宮沢賢治の世界に理解を深め情報交換をしようと、賢治が晩年に旧東北石灰工場技師として働いた東山町に集まりました。

第8回となる今年は、「デクノボー」で考え合い、「銀河系」「四次元」体感がテーマ。同ミュージアムでの基調講演や種山高原で行われた種山ヶ原の散策、星空の観察などで「賢治の世界」を体感しました。ゆかりの地を訪れた参加者は感慨深げに賢治の世界に浸っていました。



from
HIGASHINAMA
東山

コーラスで歓迎する「東山うたう会」の皆さん



地域で開催されたイベントや身近なできごとを紹介します

広がれ人の和・交流の輪

ふれあい国際交流会

外国から日本に嫁いだ人や留学生と地域の人たちが交流し、互いに異文化に対する理解を深めようと、川崎スポーツ少年団と川崎21世紀国際交流クラブ主催によるふれあい国際交流会が8月5日、川崎公民館で催され、約70人が参加しました。

岩手大学留学生の戦家環さん(中国)、アマルサナー・フージーさん(モンゴル)が自国の紹介をした後、料理体験としてギョーザとおにぎりを作りました。昼食会には、台湾、韓国、フィリピン、中国の料理が並び、民族衣装の紹介やバンブーダンスも披露されるなど、楽しいひとときとなりました。



from
HANAIZUMI
花泉

歓声を上げながらイワナのつかみ取りに挑戦

自然の息吹に大きな感動

20周年の金沢小・市谷小交流

新宿区立市谷小と金沢小の交流は7月21日から3日間行われ、市谷小4・5年生児童66人と引率教諭、保護者が花泉町を訪れました。春は金沢小が、夏は市谷小が相互に訪問し、ホームステイで互いの地域の魅力を体験しながら深めた交流は、今年で20周年を迎えました。

22日は刈生沢渓流でフィールドビンゴ。動植物などをじっくり観察しながら新たな発見に驚き、手づかみで捕まえたイワナの串焼きなど、自然の息遣いを肌で体験しました。午後には金沢小校庭に記念植樹を行い、夜はキャンプファイヤー、花火大会で交流を楽しみ、都会っ子たちは田舎の夏休みを満喫しました。